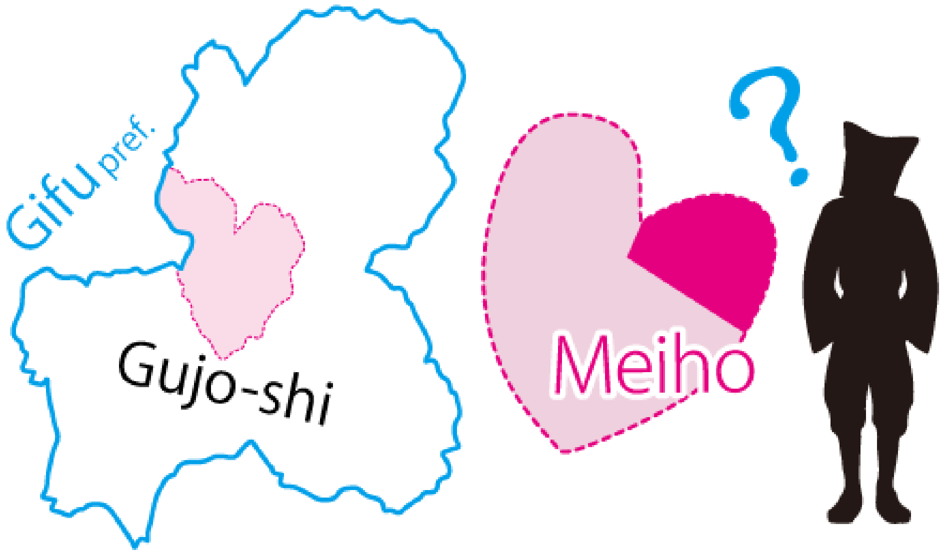
平成２７年度

まちづくり研修視察

報　告　書

開催日：2016年２月６日

視察地：郡上市明宝地域



上石津まちづくり協議会

平成２７年度　まちづくり研修視察

主催：上石津まちづくり協議会

開催日：2016 年２月６日

視察地：岐阜県郡上市明宝地域

視察参加者：２８名

- 上石津まちづくり協議会（相談役、顧問、会員、各地区推薦者）
- 上石津エネルギー学校受講者　・大垣市役所（まちづくり推進課、上石津地域事務所）

ナビゲーター：２名　野村 典博・吉原 裕貴（ＮＰＯ法人地域再生機構）

まちづくり研修視察の目的

郡上市明宝地域では昔からの「第三セクターによるまちづくり」に加え、現在は明宝地区内にある 20 以上の地域団体が取り組む「民間主体の地域づくり」が盛んに行われている。

移住定住の様々な取り組み、実績【田舎暮らしの本（宝島社）第４回「住みたい田舎ベストランキング」（2016 年２月号掲載）：総合１４位、エリア別ランキング東海エリア１位】はもとより、地域内の面積の９０％以上を占める森林資源を活用するため、木質エネルギー、小水力発電など次世代エネルギーの開発にも取り組み、エネルギーの地域内循環を目指した活動が行われている。

特色のある地域づくりの先進地を視察することによって、上石津地区のまちづくりの推進に役立てる目的で視察を実施。

今回の研修視察では、郡上市のまちづくり、自然エネルギーの推進に関わるとともに、上石津の地域づくり活動に関わり、上石津エネルギー学校の主催者でもある、NPO 法人地域再生機構の野村典博氏（同法人副理事長）と吉原裕貴氏にナビゲーターとして同行をお願いした。

視察のポイント

〇まちづくり／移住・定住

- NPO 法人ななしんぼ　小林謙一氏講義

〇古民家改修／自然エネルギー／小水力発電

- 古民家・源右衛門（げんねもん）見学
- 明宝寒水地区「自然エネルギー学校の取り組み」見学

〇森林資源利用

- ㈱郡上割り箸　見学

〇特産品

- 道の駅明宝（磨墨の里公園）

― ２月６日上石津まちづくり協議会研修視察過程 ―

地　区	発車時間	集　合　場　所
時　地区	７：５０	時支所
多良地区	８：００	上石津地域事務所
一之瀬地区	８：０５	一之瀬ﾎﾟｹｯﾄﾊﾟｰｸ　※一之瀬支所に車を駐車し、ﾎﾟｹｯﾄﾊﾟｰｸまで移動をお願いします
牧田地区	８：１５	総合体育館

→ 関ヶ原ＩＣ 名神高速道路　→養老ＪＣＴ 名神高速道路　→ 一宮ＪＣＴ 東海北陸自動車道→
→長良川SA（休憩予定）　→美濃関ＪＣＴ 東海北陸自動車道　　→郡上八幡ＩＣ →
→国道472号（せせらぎ街道）高山方面→

視察現地の予定		
時間	内容	場所
車中	・阿藤会長あいさつ・田中市議会議員あいさつ ・ナビゲーター紹介・日程確認	
10：00	**現地到着　　　・明宝山里研究会貯木場見学** 明宝二間手栃尾駐車場→徒歩	郡上市役所明宝振興事務所の（郡上市明宝二間手606－1）近くの **●明宝二間手栃尾駐車場**
10：10～	まちづくり／移住・定住 **古民家・源右衛門外部見学** **NPO法人ななしんぼ／ふるさと郡上会　小林謙一氏講義** 「明宝地区における移住定住の取り組みと全体の位置づけ、郡上市における移住定住の取り組み」 **視察参加者とのトークセッション**	**●古民家・源右衛門** 郡上市明宝二間手479
１２：００～	**昼食　メニュー説明：小林謙一氏** 自然食泊　愛里（あいり）の弁当配達	
１２：４５～	古民家改修／自然エネルギー／小水力発電 **古民家・源右衛門　施設見学　説明：野村 典博氏** 「古民家源右衛門の自然エネルギー」	
13：30～	自然エネルギー／小水力発電 **明宝寒水地区「自然エネルギー学校の取り組み」見学** **寒水自治会長・前自治会長説明**	●寒水白山神社付近 郡上市明宝寒水1203付近
１４：３０～	森林資源利用 **㈱郡上割り箸　見学**　代表取締役 小森胤樹氏／割り箸・木育事業部長　野村　純氏説明	**●㈱郡上割り箸** 郡上市明宝大谷1243
１５：３０～	特産品**道の駅明宝**（磨墨の里公園） 特産品・観光案内所・ＰＲパンフなど視察	**●道の駅　明宝** 郡上市明宝大谷1015
１６：００～	帰路に向かう　**東海北陸自動車道　関SA**	
車中	**・事務局からのお知らせ・高桐副会長あいさつ**	
１８：１５　時支所到着		

■7:50～　上石津地域出発

・車中　　　　　　　　　　会長あいさつ

■１０:００　郡上市明宝地域内到着

・郡上市明宝地内　　・明宝二間手栃尾駐車場　　・明宝山里研究会貯木場見学

■１０:１０～　古民家・源右衛門外部見学

・古民家源右衛門到着　　・外回り見学

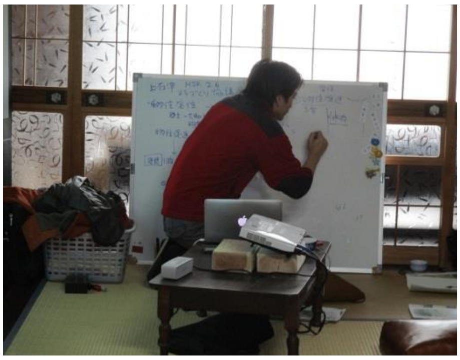
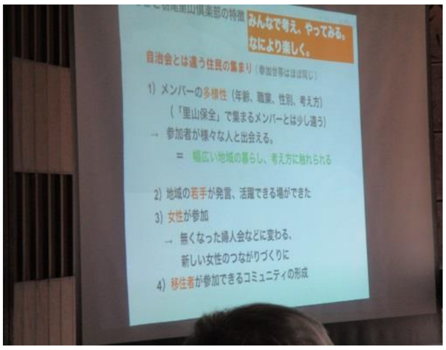
・ソーラー施設　　・屋号　表札　　・古民家・源右衛門外観

■10:20～　NPO 法人ななしんぼ／ふるさと郡上会　小林謙一氏講義

・「明宝地区における移住定住の取り組み、郡上市における移住定住の取り組み」・視察参加者とのトークセッション

・玄関　源右衛門屋号　　　　　　　　　・小林謙一氏講義

・トークセッション

・トークセッション

■12:00～昼食　自然食泊　愛里（あいり）の弁当配達

・昼食　食材は自然食泊　愛里さん自家栽培、自家調達　イノシシと鹿の肉

■１２:４５～　古民家・源右衛門　施設見学

説明：野村 典博氏「古民家源右衛門の自然エネルギー」

・野村 典博氏説明

・まきストーブ実証実験

・小水力発電　水車見学

■１３:３０～　明宝寒水地区「自然エネルギー学校の取り組み」見学

・寒水地区到着　　・白山神社にて説明　　・寒水地区前自治会長

・寒水地区自然エネルギー学校小水力発電施設見学

・寒水地区自然エネルギー学校小水力発電施設見学

・寒水地区自然エネルギー学校小水力発電施設見学　　↑前自治会長　↑自治会長

■１４:３０～　㈱郡上割り箸　見学

代表取締役 小森胤樹氏／割り箸・木育事業部長　野村純氏説明

・㈱郡上割り箸　全景

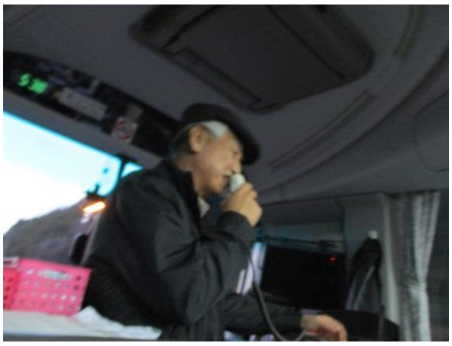
・代表取締役 小森胤樹氏

・作業所内見学

・作業所内見学

・㈱郡上割り箸事務所　　　　　　・割り箸・木育事業部長　野村純氏

■１５:３０～　道の駅明宝（磨墨の里公園）――――――――　■１６:００～　帰路――――



・道の駅明宝（磨墨の里公園）　　　　　　　　　・高桐副会長あいさつ

2016年2月6日開催　研修視察アンケート回答　　　-上石津まちづくり協議会-

今回の視察で、興味深かった、関心を持った点とその理由をお聞かせ下さい。
○視察の受け入れが、すべての関係者と連係していて、システム化されパンフレットなどの資料もたくさんそろえられ事業化されていて、ナビゲーターや語り手も大活躍されている。きちんと収入があり小林さんらが企業家のように思えた。移住してくるには、住む環境を整えるより、移住後の可能性を用意する事が大切との話は、移住定住に関わっている人の胸に刺さったと思う。 ○過疎地域で生き生きと活動し、地域の人になりきって活動経過を話されることに興味をもった。小林さんのように、取り組みのメニューやＰＲ資料つくりなどをとおして、取り組み活動に参加者があることに生きがいをもっておられるように思った。あのようなリーダーが上石津にも必要。 ○自分たちの手で、未来も元気な里づくりを目標にして、楽しい地域づくりをしようとの目的を持ち、今、空き家（古民家）を自分たち（住民・移住）の人が一緒になって育てられている栃尾地区をおもうとき、上石津はどうなんだろう？このままいけば子どもたちに地域の良いところを教えずに田舎を出て行ってしまうのではないだろうか、不安です。この豊かなまちをどうしていったらいいか、皆が考えなければ時がきた。 ○明宝。地域づくりで実績をあげている。良いチャンスとの思いで参加しました。テーマごとにすばらしい人が地域の人材として外から入り込んでいる。夢を持った移住者がすばらしい活躍をしているのが今の明宝の姿になっている。長良川、吉田川といったスケールの大きさと地域の人々の地道なまちづくりにかける情熱、そんな地域にあこがれ外から人が入る。相乗効果が明宝地域。スケールは違うにしろ上石津は決して環境的に劣っていない。人材も徐々にではあるが、入ってきている。上石津は変わった。今に生きる責任者がそんな思いでがんばって行けば一歩一歩であるが、この地を夢多き地域、若者がUターンＩターンしてくるようになる。そんなおもいで・・・ ○民間の力、勉強すべき点が多かった。寒水のお二人、キラキラと輝いて見えました。 ○どこでも同じであるが、ヤル気のある人に行政が真剣にサポートしている。豊田市で受けたと同じような一歩一歩であるが、前にすすんでいる。そうしていると人、モノ、金も集まってきて、前に前にすすんでいくような・・・。 ○古民家・源右衛門での世代間のギャップや、交流についての意見交換がよかった。 ○移住についての取り組み方が勉強になりました。「・・条件を整えない・・」のことば。今、地域で行っている空き家さがし、移住のお世話で感じているニーズと同じで、うれしくなった。 ○移住定住の取り組み方と地域のありかたなどが少しわかりました。小水力発電は、地形・水量などの違いを考えていかなければいけないと思った。 ○古民家の上掛け水車 　水量の確保の方法が川の水を直接取り入れるのではなく、あちらこちらの水をパイプで溜枡に集めオープン水路で水を流している。ゴミの処理はどうするのか？ ○小水力発電って？と思っていたが、実際にみて（水車・寒水の現場）また専門の先生から説明を受けて、興味がわいてきた。 ○寒水地区の前自治会長さんが「・・・こんなところへ発電をたずねてきてくれる人が・・！」「・・地域の子どもたちが神社へ・・・」と輝きながらはなしていたのが印象に残った。 ○寒水地区の小水力発電 　勾配があり、水量も多く、砂や砂利も少なく大きな石の間に集水枡が設置されていた。好条件が揃っていた。有効落差が５ｍとききき、これなら私の自治会にもある ○寒水のお二人は寒さの中で熱心なガイドをしていただき、地域の思いが伝わってきてすばらしかった。

在住者の方が、この人たちだけだったのでよけいに輝いてみえた。 〇「山は伐っていかないと守っていけない」という信念のもと、会社を立ち上げた、小森社長さんからのお話に感動した。大きなお世話だが採算・移住した若者の生計は大丈夫なのか？ 〇上石津も木の駅、間伐をおこなっているので、郡上割り箸の取り組みが興味深かった。
今回の視察全般について、感想をお聞かせ下さい。（良かった点・悪かった点など）
〇ゆったりした視察でテーマがはっきりしていて、大変参考になった、また行政からの説明もなく明宝は民間の力強さが違う。他にも明宝レディースの方々も活躍されているので、それぞれ自立しているところがすごい、先進地である。実現可能な小水力発電を見られたのはうれしく、夢が広がった。他県から小学校（施設）の活用を模索し、2 年後のヒントを求めている人が参加されていたが、もっと目的をもった人たちを発掘して今後視察をすると成果が出るのではないか。 〇視察全般が興味深かった。 〇盛りだくさんで面白かった。説明をされている方々が皆さん、自分の考えていることを、自信を持って説明されていることに関心をもった。わかりやすく説明する力も必要だし、問題意識と熱意、工夫、地域を変えていくには必要なものだと思った。移住者のパワーが生かされている。 〇郡上市明宝地区の視察地は、今、学習したり検討したりしている全てをみたり、現地の取り組みをされている方や指導してくださっている方共々に関連していて良かった。 〇愛里さんのお弁当：おいしく特にシカとイノシシに肉がやわらかく食べやすかった。現地の産物全てがぎっしり入って食べこたえがあった。 〇お弁当の鹿と猪の肉は、ヘルシーであると思いますが、パサパサしていた・・・。 〇シカ肉をはじめて食べたが、「たべれるね」というのが感想。 〇小水力発電：私の地区ではどこで可能かな？太陽光発電と設置場所やコスト、利用の仕方でどうなるかな？ 〇各地で成功した例があれば、見にでかける。話だけきいていているよりも、現状をみれば自分の住む地区にあてはめられる。現地でよい案がうかぶ。 〇住民の方の話も聞きたかった。都会からきた人との接し方とか・・・。自然エネルギーについて、上石津の実施できそうなところを回り、できるのか？と思っていましたが、ちょっとした水路でもあのように電気をおこすことが出来ることを実地で見学し、大自然の力にびっくりしました。上石津にできるようで楽しみです。 〇地域の良さや特産品を発掘し、取り組める仕組みつくりが大切と思った。取り組みにはどうしてもお金が必要。 〇参加者の学習意欲が高かった。啓発に有意義だった。 〇帰りのバスの中で副会長が語られた「条件」がテーマという言葉が印象的！空き家は条件を整えない。小水力発電には様々な条件が必要）・また、副会長が語られた「それぞれの立場で・・・・生かしてください。」ということばが心に刺さった。明日から自分は、地域は何をする！！！！！ 〇人数不足ということで、3 日前に連絡が入り参加したが、こんなテーマだとは思っていなかった。いつ、どこで決めて、どう募集したのか？前年の豊田の見学に行くまでの勉強会と実際に多くの人が参加して、よく学び、感動したことは、その後どう生かされたのか？今回との関連はどうなのか？行ったという実績だけ出来て中身があまりない。昨年は大きく１歩を踏み出したが、その後ほとんど何もなくもとにもどった。今回は半歩踏み出しくらいの感動。これも又さがったら、来年は誰も踏に出さなくなるのでは・・・。 〇寒い時期ではなく、暖かい時期の視察を望みます。 〇予算の関係もあると思うが、寒い時期の視察はどうでしょうか？

〇寒くはあったが、好天で足元もよく良かった。

〇移住定住、自然エネルギー、森林資源活用のそれぞれのありかた、考え方がきけてよかった。

〇私は、欠席者の変わりとして視察に参加した。いい機会をあたえられた。十分な事前資料もいただいた。すばらしい人たちに合うことができた。行くからには、テーマをもって視察にのぞんだのか？なにかひとつでも地域に生かそうとしたのか？視察で質問などをしている方をみて、反省した。

〇「自然エネルギー学校」参加者の方は、はっきりした目的意識をもって真剣に視察に参加しておられました。すばらしいと思いました。これが新し組織での本当のプロジェクトになっていけばと思いました。

〇「郡上割り箸」のことを知らなかったが、視察資料をみて興味を持ち、直接社長に話をきけて感動した。信念にもとづく事業。大変なんだろと思う。

視察を終えて、
上石津地域のこれから取り組みについて自由なご意見をお聞かせ下さい。

〇以前からいわれているが、前年の足助の時も、そのときの思いが一歩先へなかなか進んでいないので、今回も感動しただけで終わるのでは、と心配です。小水力のように小さなことからやってみようという、始める事が今の上石津に必要なことではないか。意識改革から行動を！の段階にきている。

〇移住定住について新聞テレビでも多く取り上げられている。特に子育て世代のための対策工夫が報道されている。我が家でも同居から別居となり、地域をみても高齢者が多くなっている。地域の活性化は人と人のつながりがあってのことだと思うが、中心になって動く人がいない？つながりをもつには、年齢層、戸数、地域の特性などなど難しい。女性のつながりも婦人会がなくなって希薄となった。継続の仕方を工夫して存続させていれば良かったと今になって思っている。道の駅が３６５にはない。朝市を４月～１２月の日曜日に、ポケットパークで開いているが、衰退気味である。牧田川の清流、桜の春、川遊びの夏には人が多く来るので良策があればと思う。

〇上石津地域は、南北に長い地域で、時から牧田まで、環境や利便の面で各々ある。中間の一之瀬地区は、それでは何を取り上げ活性化していくのか？自分の住む地域の良いところを見直す、地域の人々と共に語り合う場があっても良いと思う。様々な年齢層の人達と集うことがなかなか難しいが・・・。他地域からのつなぎ役、アドバイザーの方々、先生方の存在は大変すばらしいと思うとともに感謝です。今後ともよろしくお願いします。

〇上石津はひとつにならなければいけないと思いますが、まずは、牧田、一之瀬、多良、時それぞれが、それぞれの特色をいかして元気に動いていなければいけないと思います。

〇合併して１０年！上石津の行政機関の縮小をなげいていてもしようがない。旧役場に文句や、途方もない要求をしてもしようがない。合併を選んだ（その時の議員や首長を選んだ）我々の責任。支所や公民館もいつまであるかわからない。（存続させとうとする働きかけは必要だと思うが）困難な現実を直視しなければ！まちづくりの事業も民間だけでやっている例も上石津にはある。自治会やまちづくりのリーダーは、議員や行政に大きな声をあげるのではなく、自分たちで動くこと、地域の意見をききまとめること、に力をそそいでほしい。リーダー不在が現実。

〇実績を積み重ねることが自信にもなり、また次のステップへ進むと思う。・確認作業・次世代を担う子どもたちの教育もからめる。移住者との懇談会（モニター）

〇（夢）用水路を利用し下掛け水車を廻し発電し、用水路の扉を開閉し、制御盤の保温につかう。さらにポケットパークの電源と外灯にも利用し今ある施設を道の駅に昇格させること。

〇移住定住の促進も進めていかなければならないが、地元の若者が参加できる場所をつくらなければならないと思います。

〇時代が違っても今までも乗り越えて（過ぎて）きたのだと思うけれど、次世代の育成、次世代への繋

ぎが大切だと思う。ほったらかしのまま、目をつむったまま、次世代に投げることだけはしてはいけない。本気で、次世代の声を聞こうとしているのだろうか？

〇昨年度の講演会や研修で学んだこと、またみんなが共感したことは、「批判をしないこと」「自分たちで動き出す（公に頼らない）こと」だと理解している。今年度は各地区がそれぞれ「自ら動き出す（出さなければいけない)」年だったと思う。動き出している地区にとって今回の視察は、参考になるとともに、自分たちの動きの確認にもなったと思う。動いていない地区はあいかわらす批判するだけに終わっているだけに思える。各地区がそれぞれ前に向かって動いていることが前提の上石津まちづくり協議会。移住定住のプロジェクトも各地区が動き出してから、上石津全体としての取り組みだと思う。今回の組織改革は、上石津のあらたな出発点になると思う。地区の代表者は、協議会のあつまりで他の地区の取り組み状況を聞き、各地区のまちづくり団体に伝えるだけでも視察に匹敵する効果があると思う。その上で地区の意見を協議会に上げる・・・。やっとそんな組織の基礎ができたと思う。

〇郡上でも、移住の窓口はあるが、全ての地域でまんべんなく移住の受け入れをしているわけではない。（豊田市も同じ）大垣市でも窓口は市役所担当課と地域事務所にある。時地区は動き続けているので、移住者が移住者を呼んでいるし、時に住みたいという希望者が多い。地域が動いて受け入れ態勢をととのえないと、いくらＰＲやバンクをつくってもだめだと思う。それに、「息子さんが都会へ出て行っている家」を「悪」とする考え方がまだある。田舎に住みたい人もあれば、都会に住みたい人もいる。地域の体質やリーダーの力量で４地区の差が出ている。

〇上石津ではいつも公を徹底的に批判しながらも、公に頼りきっている。明宝の民間の力、知恵のレベルの高さを思い知らされた。我々にできるのか？私の地区では、かたちをつくっただけで、まだやろうともしていない。批判や個性という名の自分勝手だけで前に進んでいない、協力しようという気持ちがない、リーダーも不在。他３地区と同レベルで新しいまちづくり協議会の土俵にあがれるのか？心配。

〇空き家調査は、せっかく自治会長さん方が苦労してしらべていたたき、まとめていただいた地域の大切なデータ。そのデータを生かすも殺すもその地域、自治会次第！できれば継続して調査をお願いしたい。移住のためのものであるのは勿論だが、最近くずれかけの危険な家も増えてきている。調査を続けるということは、地域の状況を常に知っているということにつながると思う。まとめていただいた結果をもとに自主的に自治会でやればいいのだが、できれば上石津全体でそろって、調査の継続ができたらいいと思う。その音頭とりを協議会にお願いしたい。

〇少子化問題、地域の絆つくり、若者に帰ってきてもらえるようなまちづくり。

〇養老山脈の裏にこれだけ緑豊かな里山、そして国道３６５号線。そこに足を止めるには、緑の村の下でやっている物販、石釜ピザの経営者、雨宮氏。チョットした心の交流が地域を蘇らせるヒントではないか？そんなおもいで地域づくりに再チャレンジしたいものです。

〇今回の視察も、豊田市と同じで、やっている人がいるところは、動いている！という見本だったと思う。

〇ちょっとはずれるかもしれませんが、「観光」とはその地域の光っているところを観（み）せること！だときいたことがあります。上石津の各地区が行っている取り組みも個々に目を向ければ、かなり光っている部分がたくさんあります。豊田にしても郡上にしてもその部分をうまくクローズアップしうまくネットワーク化をしているのだと思います。まちづくり協議会の活動事業にその部分をなんらかのかたち？で、取り入れれば！

〇役所が先頭に立ってやろうとしてもむつかしい。能力、意欲のある人を採用して仕事としてやってもらう。行政はサポートをしっかり。拠点づくりも大切、業者もどんどん入ってもよい。みんなでワイワイ話し合う中で何かが見えてくると思う。いつまでもこのような研修だけがすすめば全員が受身になってし

まい、次は何をやってくれますかで、誰も動かなくなる。歩みは遅くても一歩ずつ継続して協力してやらないと何もできないと思う。行政も町内でがんばっている部会・団体。うまく回っていない団体・部会の内容、すすめか方を研究してみれば何かがつかめるのでは？行政としてはむつかしい事と思うがやっているところへのフォローはより強化。やっているフリをしているところは捨てておいてメリハリを出すのも必要では。

〇今年の「自然エネルギー学校基礎編」参加者は少なかったですが、来年度予定されている！？実践編ではぜひ、地域のワクや、批判の声を超えて「上石津の人材、知恵、力を結集して」形にできれば、と思います。電気や発電に興味がなくても、話し合い、方法、工程、役割分担など、まちづくりのヒントがつまっているはずです。実践で学ぶ。

〇視察や講演、研修でいつも思う。自分の地区は動いていないように思うが、そんな自分はやっているのか？他人に頼りっぱなしでやっていないのなら、せめて協力をしているのか？反省ばかりです。

〇多様化！個人主義！少子高齢化！団塊の世代の期待はずれ！・・・・。の中、自治会やまちづくりの運営は大変なことばかり。そんな中、協議会の役員の方々が工夫された、「動いてもらうための昨年度からの一連の試み」頭が下がる。会の組織の見直し、思い切った内容で、また各４地区に投げかけるような方法、大賛成。協議会は４地区に、各４地区からは協議会に「双方向」というかたちが、上石津オリジナルでいい。これからの会の運営も大変だが、それ以上に４地区の各まちづくり団体、自治会の運営も大変。4 地域の各連合自治会やまちづくり団体も各自治会と双方向で運営をしていくことを心がけていかなければいけない。

〇名古屋大学や地域再生機構など、実際に現場で動いて実績をあげている頭脳ともいえる機関の力をうまくいただいて協議会の運営をしていただいていると思います。今後もこのつながりを大切にしていければと思います。

〇各自治会長は上石津のまちづくりに参加できる仕組みができると良い。そうすれば各自治会のみなさんに情報発信も出来、その取り組みに参加いただける方が多くなると思う。

2016 年２月６日開催　研修視察アンケート回答　　-上石津まちづくり協議会-

（追加提出分）

今回の視察で、興味深かった、関心を持った点とその理由をお聞かせ下さい。

〇移住定住について、若い方が移住して来られその方が中心になり、推進されている事に関心しました。

①集落一体となって取り組まれている事

②押し付けでなく、仲間作りを組まれている事

③コミュニケーションを大事にしているとの事

④民間団体で会を構成している事

⑤移住者と旧住民との関係が良いとの事。

以上の事が、移住については、良いものであると関心しました。

〇①なにもかも条件を整えてから移住者をむかえるのではなく移住者が生活できていく可能性を用意することが肝要との言葉は、示唆に富んだアドバイスであった。②情報誌などマスコミ関係者に取材に来ませんかとの取材ツアーを企画したとのことであったが、我々にも取り組んでも良い移住定住アピール手法であると思った。

〇今回の研修の印象は、「楽しく、あせらず自分のペースで活動している」点でした。移住者の方ばかりなので、現在のままがベストで危機感が全く無いからでしょうか、昨年の足助とは全く違っていました。郡上市も広域合併しましたが、旧市町村で温度差があり、取り組み方が違うのを移住者連合体？で取り組

む核が出来そうな様子が垣間見えた点が興味をもちました。この反面移住者と地域住民とのかかわりが少し薄いと感じました。

〇移住者、女性、若者など新しい視点や「まずやってみよう」という行動力が地域で生かされていること。また地域が活躍を後押ししていること。

〇減少する人口に危機感を持った地元の人々が力を合わせて地域おこしに取り組むことを決めたことが良かった。

〇活動の拠点になっているのが源右衛門の古民家で、これを改造して地域の拠点にしようと話しが出て地域総出で改造に着手したのが良かったと思う。

今回の視察全般について、感想をお聞かせ下さい。（良かった点・悪かった点など）

〇古民家源右衛門、明宝寒水小水力発電を視察が出来、そこでこれまでのご苦労話しを聞かせていただきました。各々地域づくりについて、住民の理解と協力により出来上がったとの事で住民の力に関心しました。今後の上石津まちづくりに非常に参考になるものでした。

〇過疎対策の知恵を得るには先行地域の見学が有効であると思った。

〇今回は移住定住と小水力発電がテーマでした。双方とも助成事業で、採算が取れる事業化には程遠く感じました。数年後を考えたとき、大きなリバウンドがきそうな予感がしました。

小水力は少し物足りない研修か？野村先生の出番が少ないのが気がかりです。

総合的には早朝からの研修でしたが、大変実のある内容で一人一人のテーマに十分答えられたと思います。

〇まちづくり協議会の方々に加え新しい方々と視察に行くことが出来、意見交換や交流が出来たこと。

〇地域おこしのためには、とにかくやってもることが重要と思う。やってみないと実態は動かない。それでも過疎地の振興は難しい、外部から移住としてきても人口増加には至っていないと思う。いかに人口の減少を食い止めることがもろとも重要である。外部の人々にはオープンな気持ちと態度が必要だと思います。

視察を終えて、
上石津地域のこれから取り組みについて自由なご意見をお聞かせ下さい。

〇割り箸工場を視察し小森社長の話を聞き、小森さんの考え方に関心しました。経営者として色々と山村で生産されるものを利用されている事です。上石津地域も山村としてまだまだ宝物がいっぱいあるのではないかと思われます。これからはまちづくりに若い人や、夢のある子どもたち他、地域の方々多くの人に参加してもらい上石津では、の特産品発掘に取り組んでいかなくてはならないと思います。

〇人口増加のための移住定住促進と同時に林業の承諾者を確保する目的の移住促進策も検討してもよいのではないかと思った。

〇移住定住について、時地区は明宝地区よりもすばらしいと感じました。研修が金になるなら時地区も情報発信し研修受け入れの組織をつくるべきでしょう。他の地域はそれぞれに合った活動を模索しつつ独自のものが必要です。まずは住民は誇りを持って楽しく生きる姿を移住希望者に感じてもらう事が「選ばれる地域」に成ると感じました。条件を整えるのは二の次だと知りました。

〇小水力発電　山深い郡上に比べ上石津は立地条件にかなう場所が少ないのでは？地域・人材を絞り込み活動するのがベストと思います。

〇小水力は、関心のあるものにとっては非常に良いテーマだと思う。上石津の可能性を深めてほしい。その一方で地域住民に広く受け入れられるテーマを選んで取り組み、みんなから喜んでもらえる「広がり」も大切だと思う。